

1人当たり医療費は2年間で1万5千円増加

—令和4年度における本県の国保加入者数、国保医療費等の状況—

本県の国保加入者数は、高齢化の進行や被用者保険の適用拡大により年々減少しております。

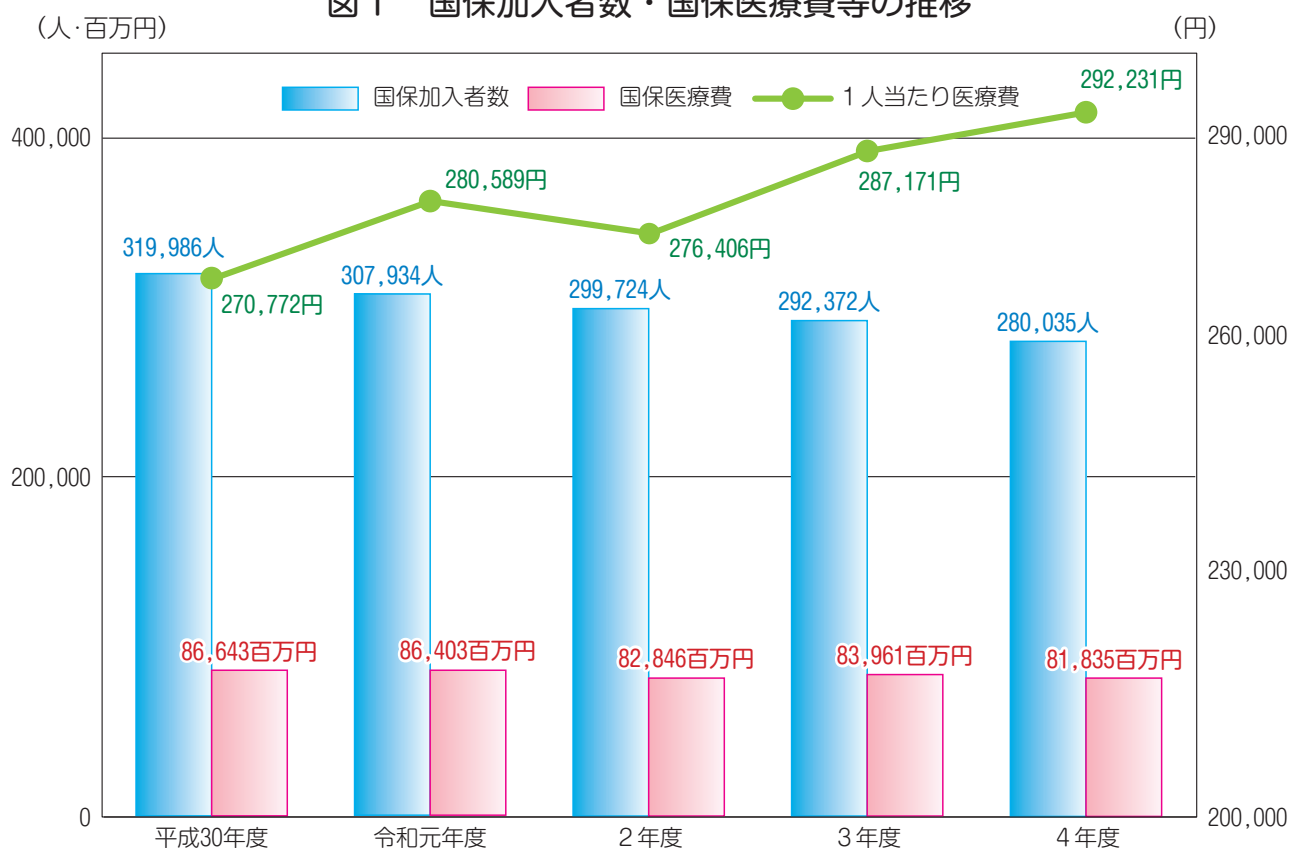
それに伴い国保医療費も減少傾向にあるものの、医療の高度化等の影響もあって1人当たり医療費は上昇しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は18年ぶりに減少しましたが、以降の2年間で1万5千円増加しています。(図1参照)

国保加入者数の減少により保険税(料)の増収が難しいことから、国保制度の安定運営のため、これまで以上に医療費の適正化に向けた取組が必要です。

特に、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う加入者の受診行動の変化が指摘されており、受診控えに伴う疾病の重症化が非常に懸念されていることから、医療や健(検)診の適正受診を促す取組が重要です。

こういった医療費や保険税(料)等の状況は本会作成の『国民健康保険図鑑』(令和4年度実績等を取りまとめた「令和5年度版」は3月15日に市町村へ配付済)に詳しく掲載しておりますので参考にしてください。

図1 国保加入者数・国保医療費等の推移



$$\text{◎ 1人当たり医療費} = \frac{\text{国保医療費 (入院+入院外+歯科)}}{\text{国保加入者数 (年度平均)}}$$

◎各年度の事業年報(国民健康保険図鑑作成時点)より調製した。

1人当たり医療費を3つの要素に分解してみると…

1. 受診率（国民健康保険図鑑 第1表より）

県平均は1,059.09（対前年度比1.23%増）となりました。（図2参照）

受診率は、一般的に受療環境の変化、感染症の突発的な流行などの影響を受けると言われており、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響等に伴う受診控えが大きく影響したことで大幅に低下しました。

令和3年度からは再び上昇に転じましたが、コロナ以前の水準に戻っていないことから、受診行動が変化していることが見てとれます。

2. 1件当たり日数（国民健康保険図鑑 第4表より）

県平均（合計）は1.78日（対前年度比0.04日減）と12年連続で減少しました。（図3参照）

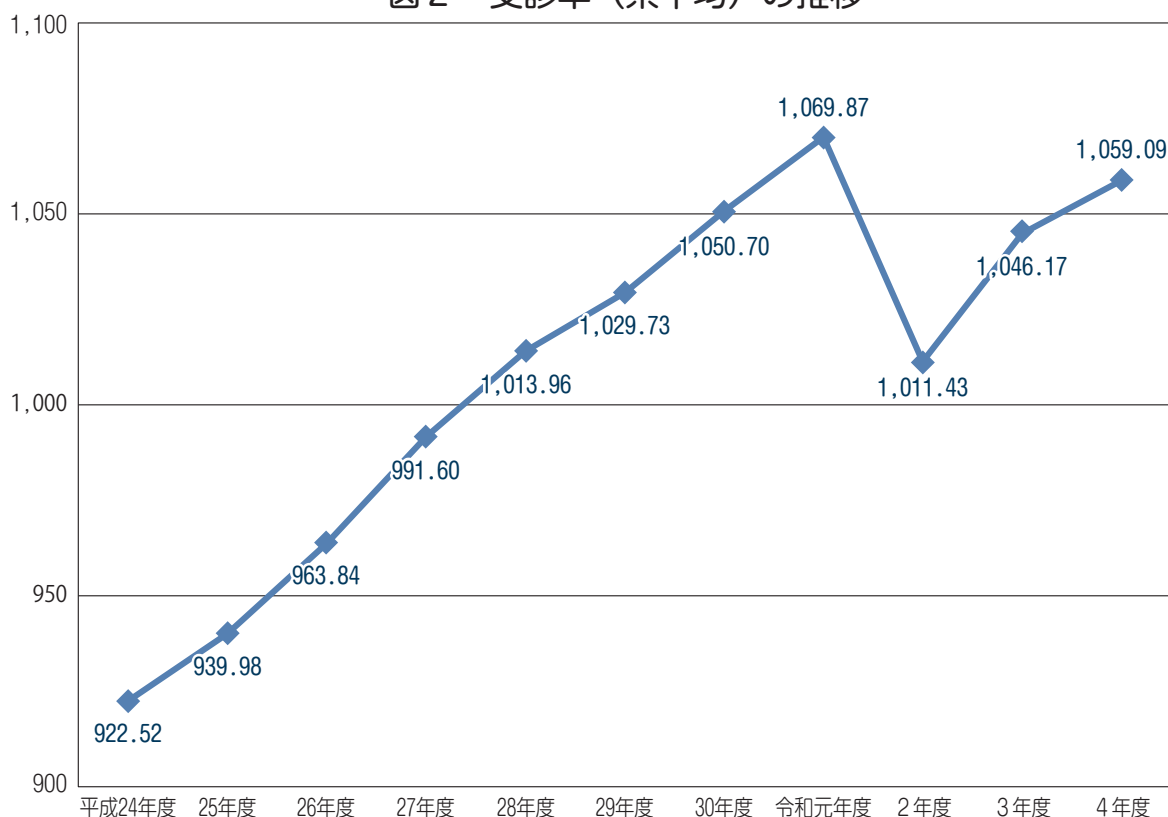
入院・入院外等別でも、前年度に比べいずれも減少しています。

3. 1日当たり医療費（国民健康保険図鑑 第5表より）

県平均（合計）は15,512円（対前年度比2.60%増）と6年連続で増加しました。（図4参照）

1日当たり医療費は、一般的に医療費改定や疾病構造、受療環境等に左右されやすいと言われています。

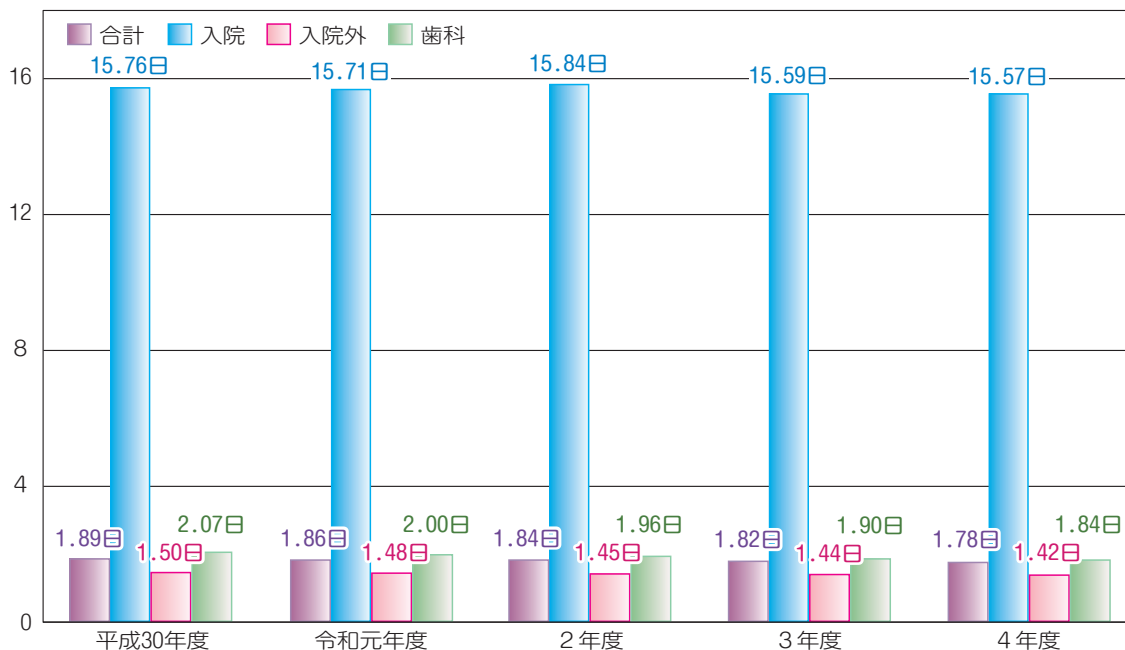
図2 受診率（県平均）の推移



$$\text{◎受診率} = \frac{\text{国保レセプト（入院+入院外+歯科）件数}}{\text{国保加入者数（年度平均）}} \times 100$$

◎各年度の事業年報（国民健康保険図鑑作成時点）より調製した。

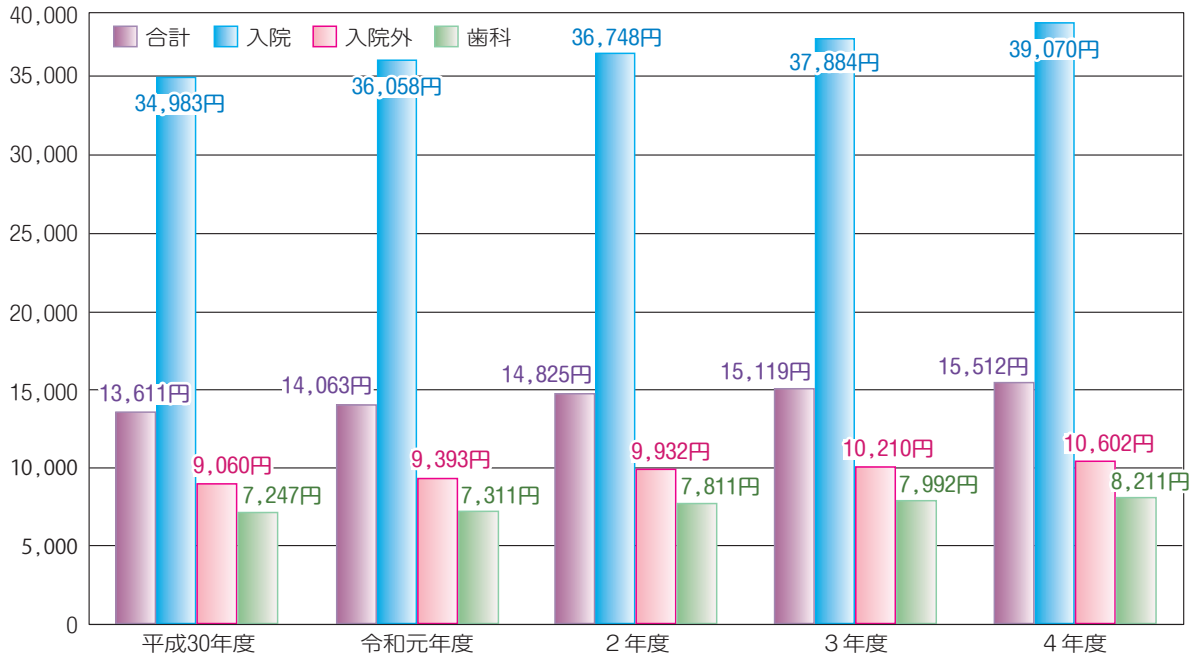
(日) 図3 1件当たり日数(県平均)の推移



$$\text{◎ 1件当たり日数} = \frac{\text{国保診療実日数}}{\text{国保レセプト件数}}$$

◎各年度の事業年報(国民健康保険図鑑作成時点)より調製した。

(円) 図4 1日当たり医療費(県平均)の推移



$$\text{◎ 1日当たり医療費} = \frac{\text{国保医療費}}{\text{国保診療実日数}}$$

◎各年度の事業年報(国民健康保険図鑑作成時点)より調製した。